

再論・合格のために

弁護士 嘉 村 孝
弁護士 木 下 圭 一

第1 これまでの講義に共通すること

- 1 大前提となる「法的三段論法」
- 2 基本的知識の定着が必要
- 3 インプット・アウトプットの並行学習の必要性
- 4 問題分析の重要性
 - (1) 問題文の読み方
 - (2) 問題分析
 - (3) 答案構成 (答案の書き出しを含む。)
- 5 過去問 (出題趣旨、採点実感を含む。) 学習の重要性
- 6 合格から逆算して考えること

第2 どのように取り組むか～各人の状況に応じて

- 1 当該科目の全体像の把握 (薄い教科書で)
- 2 短期集中学習のすすめ (短期間に繰り返すこと)
- 3 1科目に限定して仕上げてみる (勉強法の確立、コツをつかむ)
- 4 隙間時間の活用 (通勤通学等)
- 5 時には休むことも必要 (メリハリをつけて)
- 6 来年の試験に必ず出願する (目標の設定、現場の実感)

第3 ガイダンス内容の再確認

- 1 自分で勉強した人だけが合格する。
明大法曹会は、受講生を最短で合格させるため、全力でサポートする。
(答練、ゼミは、自学自習の軌道修正のためにある。)
- 2 自分の頭で考える「思考力」
アドバイスに耳を傾ける「柔軟性 (素直さ)」
最後までやり抜く「熱意」
*これを備えた人は、短期合格しやすいと考える。

第4 補論～択一の勉強法